

記者発表資料

平成27年7月31日

九州地方整備局
延岡河川国道事務所

鮎、おどる 清流・五ヶ瀬川

水質は、今年も全国でトップクラス

～平成26年 五ヶ瀬川の水質現況公表～

全国および九州地方における一級河川の直轄管理区間について、平成26年の水質現況が公表されました。

◎全国の主要河川の中で平均的な「水質が最も良好な河川」(BOD値が環境省の定める報告下限値0.5mg/L)は、**五ヶ瀬川**をはじめ、13河川でした。(別紙-1参照)

九州では、**五ヶ瀬川**、小丸川、本庄川および川辺川の4河川が「水質が最も良好な河川」となっております。

五ヶ瀬川は、昨年に引き続き、全国トップクラスの水質でした。(別紙-2参照)

※九州での水質現況結果は、<http://www.qsr.mlit.go.jp/>を参照してください。

◆BODとは

BOD(生物化学的酸素要求量)とは、水中の有機物を栄養源として、微生物が増殖・呼吸するときに消費される酸素量で、20℃5日間で消費される溶存酸素量を標準としています。水質汚濁を示す代表的な指標で、水質関係の各種法令で規制項目として採用されています。

【問い合わせ先】

国土交通省 延岡河川国道事務所 技術副所長 しが賀 みのり三智
調査第一課長 おの野 とみ富生
〒882-0803 宮崎県延岡市大貫町1丁目2889番地
電話：0982-31-1155(代) 0982-31-1191(調査第一課直通)

★同時発表 国土交通本省(水管理・国土保全局 河川環境課)
北海道開発局及び各地方整備局 各河川関係事務所

(別紙一1) 平成26年度水質調査地点の
平均的な水質(BOD値)が良好な河川
(0.5mg/l以下)

BOD値による河川の水質状況

地方名	河川名	水系名	都道府県
北海道	シリベツガワ 尻別川	シリベツガワ スイケイ 尻別川水系	北海道
北海道	シリベシトシ ベツガワ 後志利別川	シリベツトシベツ ガワスイケイ 尻別利別川水系	北海道
北海道	サル ガワ 沙流川	サル ガワスイケイ 沙流川水系	北海道
東北	アラカワ 荒川	アブクマガワ スイケイ 阿武隈川水系	福島
中部	アベカワ 安倍川	アベカワ スイケイ 安倍川水系	静岡
近畿	クマノガワ 熊野川	シンシングウガワスイケイ 新新宮川水系	和歌山
近畿	キタガワ 北川	キタガワスイケイ 北川水系	福井
四国	ニヨドガワ 仁淀川	ニヨドガワ スイケイ 仁淀川水系	高知
四国	ヨシノガワ 吉野川	ヨシノガワ スイケイ 吉野川水系	徳島
九州	カワベガワ 川辺川	クマガワ スイケイ 球磨川水系	熊本
九州	ホンジョウガワ 本庄川	オオヨドガワ スイケイ 大淀川水系	宮崎
九州	オ マルガワ 小丸川	オマルガワ スイケイ 小丸川水系	宮崎
九州	ゴカセガワ 五ヶ瀬川	ゴカセガワ スイケイ 五ヶ瀬川水系	宮崎
全国で13河川			

109水系で九州地方の主要河川の中で平均的な水質が最も良好な河川(BOD値が環境省の定める報告下限値0.5mg/l)は、全国で13河川ありました。

平成26年 五ヶ瀬川水系の水質現況

1 平成26年 五ヶ瀬川水系の水質現況

・水質汚濁に係る環境基準の中の「生活環境の保全に関する基準」において、河川の水質を表す一般的な指標であるBOD（生物化学的酸素要求量）の今年度分析結果は、下表のようになっています。

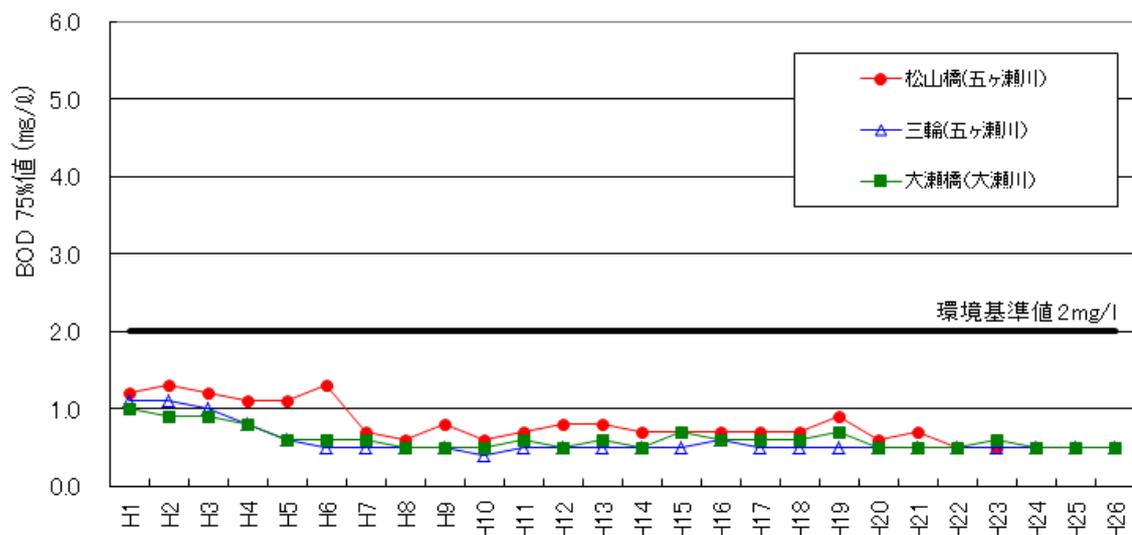
- ・河川の水質は、下図のとおり経年的に見ると穏やかな改善傾向にあり、近年の値を見ても良好な水質状態を保っています。
- ・BOD75%値で環境基準値を満足した地点は、三輪、松山橋、大瀬橋の地点となっています。

平成26年 水質現況

(mg/l)

	三輪	松山橋	大瀬橋	環境基準値
BOD75%	0.5	0.5	0.5	A類型2.0以下
BOD平均値	0.5	0.5	0.5	

五ヶ瀬川 BOD75%値経年変化



※河川における類型毎の環境基準値 (BOD75%値)

AA 類型：1mg/l, A 類型：2mg/l, B 類型：3mg/l, C 類型：5mg/l, D 類型：8mg/l,
E 類型：10mg/l

※BODにおける環境基準の達成状況の判定

測定年のデータの75%値が基準値以下である場合、当該測定地点において環境基準を達成していると評価しています。例えば、月1回の測定の場合、12個/年のデータのうち水質の良い方から9番目の値(12個×0.75)が75%値となります。

また、平均値は他の調査地点と数値比較を行う場合に用いています。

2. 水生生物調査

河川の水質保全の必要性や河川愛護の重要性を認識してもらうため、小中高大学生等の参加を得て、昭和60年度から水生生物による簡易な水質調査を実施しています。

平成26年は、4地点（五ヶ瀬川（三輪）、大瀬川（大瀬橋）、北川（小川・永代橋）、祝子川（桑平橋））を対象に110名の小学生・大学生の参加を得て、調査を実施しました。

調査結果において、カワゲラ類、ナガレトビケラ類、ヒラタカゲロウ類等が出現しており、全地点で「きれいな水」と判定されました。

九州地方整備局HPアドレスhttp://www.qsr.mlit.go.jp/n-kawa/suisei_tyosa/pdf/H26keka.pdf

3. 新しい水質指標による住民との協働調査を実施

河川の水質管理指標は、住民にわかりやすいものである必要があります。

このため、平成17年より河川の水質をBODによる評価だけでなく、「人と河川の豊かなふれあいの確保」や「豊かな生態系の確保」といった住民の視点に立った評価（新しい水質指標による評価）も実施しています。

この新しい水質指標には、河川管理者がこれまで測定してきた項目だけでなく、「川底の感触」や「水のおいしさ」等の“住民との協働”による調査も測定項目として加えています。（詳細は平成26年九州地方一級河川の水質状況（平成27年7月29日九州地方整備局記者発表））

4. 水質事故

平成26年度における五ヶ瀬川水系に関連する水質事故出動回数は、5回発生しています。過去に発生した水質事故の多くが油流出事故であることをうけ、平成26年11月11日に油取扱業者（ガソリンスタンド等）を巡回し、油流出事故防止の協力を訴える啓発活動を実施した。

なお、事故発生時の対応については、河川管理者と関係機関により構成される「五ヶ瀬川水系水質汚濁防止連絡協議会」を設置しており、発生時においては、速やかに情報の収集、通報、連絡を行うとともに関係機関の協力のもとに、オイルフェンスの設置等の緊急措置を講じることにより、被害を最小限にとどめる体制を取っています。

5. 水質保全に対する取り組み

当事務所では、「五ヶ瀬川水系水質汚濁防止連絡協議会」の関係機関と連携し、水質保全を図るために以下の取り組みを行いました。

- (1) 水質に関する情報交換
 - ・各機関で実施している公共用水域水質測定結果の共有
- (2) 危機管理体制
 - ・河川パトロールの実施
 - ・水質事故対策訓練の実施
- (3) 水質汚濁防止に関する広報活動
 - ・水生生物調査
 - ・河川愛護月間におけるキャンペーン活動の実施
 - ・リバーフェスタのべおか等における各種広報活動
 - ・水質改善及び油流出事故防止の啓発活動

(4) 生活排水対策等の実施 (流域・市・町)

- ・生活排水対策の推進
- ・合併処理浄化槽設置事業の促進
- ・農業集落排水施設等の整備促進

6. 水質データ (速報値) の公表

九州地方整備局ホームページの下記のサイトにおいて、延岡河川国道事務所が調査測定する調査地点について、毎月の水質データ (速報値) を公表しています。

HPアドレス <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-kawa/index.html>

7. ダイオキシン類実態調査

平成26年10月に三輪・大武地点にて水質及び底質中のダイオキシン類 (ポリ塩化ジベンゾーパラジオキシン (PCDD)、ポリ塩化ジベンゾフラン (PCDF) 及びダイオキシン様塩化ビフェニル (DL-PCB)) の調査を実施しました。

①水質調査結果

水質の調査結果は下記に示すとおりであり、『ダイオキシン類対策特別措置法』により定められている『水質の環境基準値』1pg-TEQ/Lを超える地点はありませんでした。

②底質調査結果

底質の調査結果は下記に示すとおりであり、『ダイオキシン類対策特別措置法』により定められている『底質の環境基準値』150pg-TEQ/g及び要監視濃度 (環境基準の1/2) を超える地点はありませんでした。

調査地点	ダイオキシン類(水質)				ダイオキシン類(底質)			
	PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL	評価値 (平均値)	PCDD+PCDF	DL-PCB	TOTAL	評価値 (最高値)
三輪	0.065	0.0046	0.070	0.070	0.20	0.013	0.21	0.21
大武	0.067	0.0050	0.072	0.072	0.25	0.016	0.27	0.27
	(pg-TEQ/L)				(pg-TEQ/g)			

◎水質調査地点及び水生生物調査地点位置図



出典：国土地理院ホームページ 地理院地図